

2025年3月期
決算補足
説明資料

5月9日



anicom[®]

アニコム ホールディングス株式会社

証券コード：8715

全体目次

1 2025年3月期 決算概要

2 中期経営計画のレビューおよび2026年3月期 損益計画

3 APPENDIX

1 2025年3月期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因(対前年度差分析)
5. 貸借対照表 サマリー
6. 重点施策の進捗状況





1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)

経常収益

67,683 百万円

前年度比12.0%増(7,246百万円増) 計画対比2.6%増(1,683百万円増)
うち、保険引受収益は前年度比8.5%増(4,588百万円増)

のれん償却前 経常利益

5,191 百万円

前年度比19.0%増(829百万円増)

経常利益

4,941 百万円

前年度比18.8%増(781百万円増) 計画対比2.9%増(141百万円増)

ペット飼育需要や競争環境の変化を新規契約獲得へ着実に繋げ、業務効率化の推進等により、
過去最高の収益・利益を更新

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は24.5万件、同保有契約件数は128.7万件(7.9%増)と**伸長が加速**
- 保険事業以外の、その他経常収益は7,235百万円(33.2%増)と**順調に拡大**
- 資産運用収益は1,586百万円(116.2%増)となり、不透明な市場環境下で機動的な資産運用を図り、**計画を上回る着地**

■ 経常利益

- 他社契約移管コストが発生するも、増収効果と業務運営の効率化により、**増益、対計画も達成**



(百万円)

2. 損益計算書 サマリー

	24年3月期	25年3月期	対前年比 増減率
経常収益	60,437	67,683	12.0 %
保険引受収益	54,273	58,862	8.5 %
資産運用収益	733	1,586	116.2 %
その他経常収益	5,430	7,235	33.2 %
経常費用	56,277	62,742	11.5 %
保険引受費用	38,436	41,928	9.1 %
・正味支払保険金	(30,494)	(33,345)	9.3 %
・損害調査費	(1,108)	(1,122)	1.3 %
・諸手数料及び集金費	(5,135)	(5,235)	1.9 %
・支払備金繰入額	(257)	(286)	11.1 %
・責任準備金繰入額	(1,439)	(1,937)	34.6 %
(うち未経過保険料)	(1,325)	(1,788)	34.9 %
(うち異常危険準備金)	(113)	(148)	30.5 %
資産運用費用	97	263	171.6 %
営業費及び一般管理費	15,795	17,857	13.0 %
その他経常費用	1,948	2,693	38.2 %
のれん償却前経常利益	4,362	5,191	19.0 %
経常利益	4,159	4,941	18.8 %
純利益	2,729	3,246	18.9 %



2. 損益計算書 サマリー

(参考)アニコム損保 保険重要指標

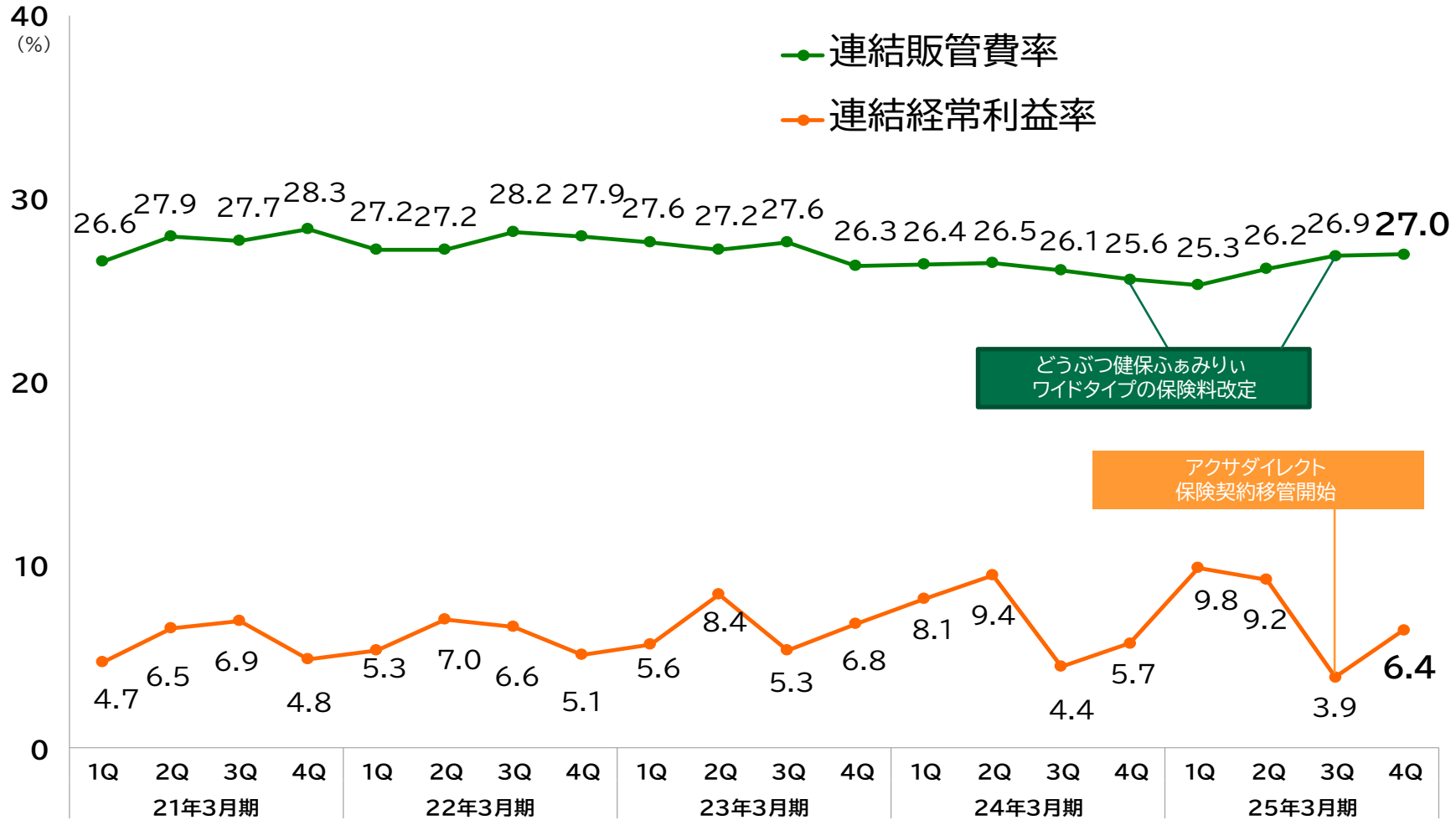
	24年3月期	25年3月期	(百万円) 対前年比 増減率
既経過保険料	53,171	57,341	7.8%
発生保険金(損害調査費含む)	31,860	34,755	9.1%
E/I損害率①	59.9%	60.6%	0.7pt
既経過保険料ベース事業費率②	33.3%	32.3%	△1.0pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(10.0%)	(9.6%)	(△0.4pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	93.2%	92.9%	△0.3pt



3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照

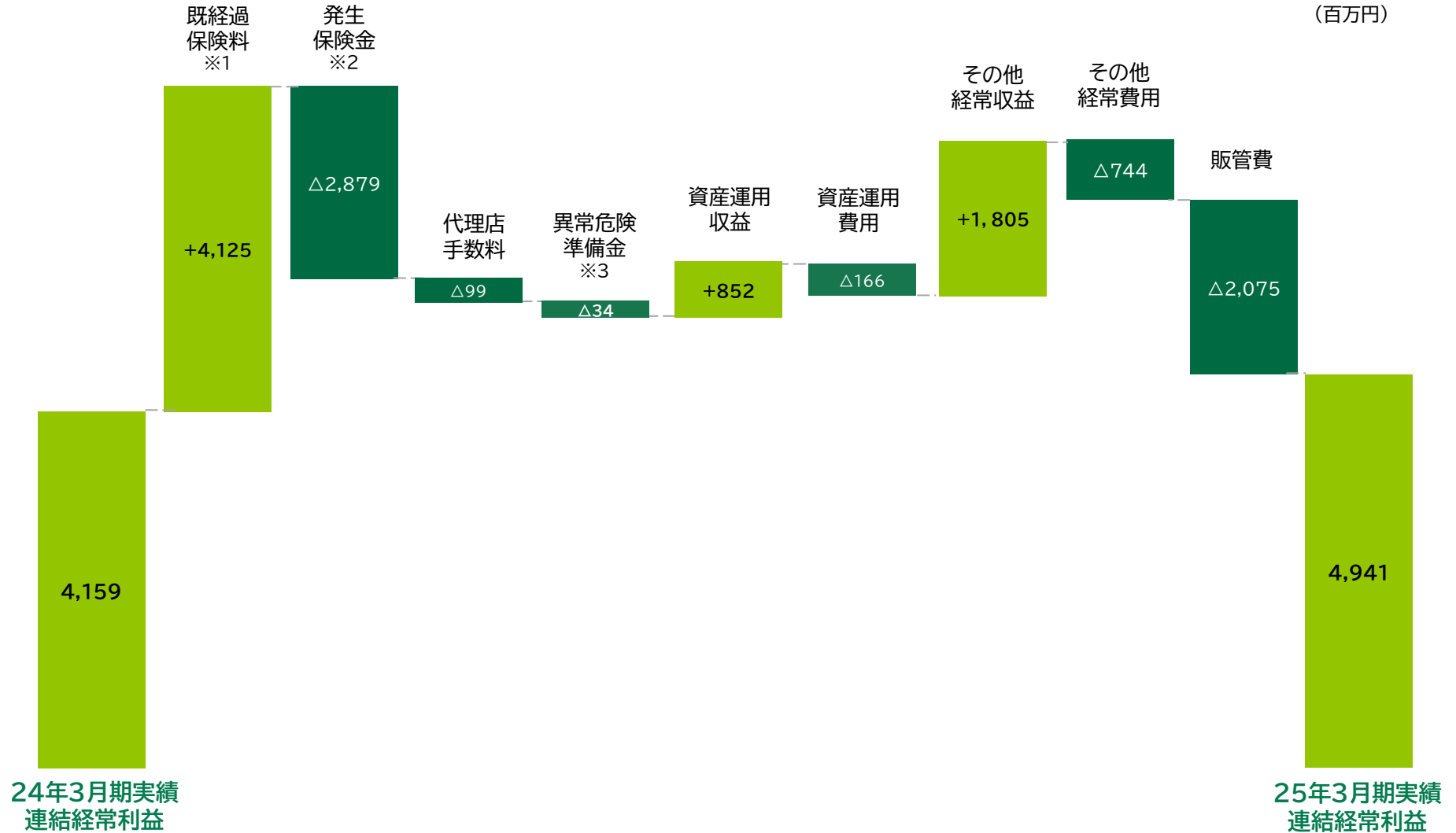




4. 経常利益の増減要因(対前年度差分析)

※1 既経過保険料＝保険引受収益－普通責任準備金繰入額(未経過保険料)
 ※2 発生保険金＝正味支払保険金＋支払備金繰入額
 ※3 異常危険準備金＝異常危険準備金繰入額＋異常危険準備金戻入額

(百万円)





5. 貸借対照表 サマリー

(百万円)

	24年3月期	25年3月期	対前年比 増減率
資産合計	66,357	72,494	5.5 %
現金及び預貯金	23,879	26,460	4.9 %
有価証券	27,510	29,430	3.1 %
固定資産	6,925	7,014	1.3 %
その他資産	8,041	9,588	19.2 %
負債合計	36,204	44,427	15.6 %
保険契約準備金	24,551	26,774	4.3 %
うち支払備金	3,245	3,532	7.4 %
うち責任準備金	21,305	23,242	3.8 %
社債	5,000	10,000	100.0 %
その他負債	6,653	7,653	15.0 %
純資産合計	30,152	28,066	△ 6.6 %
株主資本	31,144	30,132	△ 3.5 %
評価・換算差額等	△ 1,248	△ 1,916	— %
その他	256	△ 149	— %
負債・純資産合計	66,357	72,494	5.5 %



6. 重点施策の進捗状況 その1 保険事業・資産運用・その他

保険事業

新規・保有契約の状況

新規契約獲得件数は年間で24.5万件超、四半期単位では6.6万件で過去最高更新を継続
25年3月末の保有契約件数は128万件を突破

アクサダイレクトからの移管影響

24年12月よりアクサダイレクトから移管開始

【当期影響】

決算期	移管契約数	移管手数料
25年3月期 3Q	約0.3万件(実績)	約1.5億円(実績)
25年3月期 4Q	約0.8万件(実績)	約4億円(実績)

商品・サービスの拡大

「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、
年間の継続率は88.2%と安定して高いレベルで推移

資産運用

柔軟かつ機動的な資産運用により、計画を達成

インカム収益を着実に積み上げながら、概ね計画通りのペースで着地
政策保有株等の譲渡が発生したため、当初計画を上回る資産運用益を確保

その他

「従業員一人一特許戦略」の推進 25年3月末 発明者数144名(20年12月末 発明者数13名)

【分野別 特許件数】※25年3月末時点

	画像認識 AI	遺伝子 フード・ 腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許 件数	9	8	2	3	22

【取得した特許の例】特許第7636958号

カットスタイル判定システム及び
カットスタイル判定方法

写真に写った動物が、どんなカットスタイルを
しているかをAIで判定するシステム



6. 重点施策の進捗状況 その2 シナジー創出事業

産まれる前から

川 上



ブリーディングサポートの強化

動物愛護法の改正も踏まえ、
各施策を強力に推進中

マッチングサービス事業の強化

『みんなのブリーダー』
『みんなの子猫ブリーダー』
成約数が順調に伸長



マッチングサービス事業（シムネット）24年度業績

・売上高 : 2,767百万円(前年度 2,371百万円)
・経常利益: 264百万円(前年度 188百万円)

注)経常利益はのれん償却後

日々の暮らし

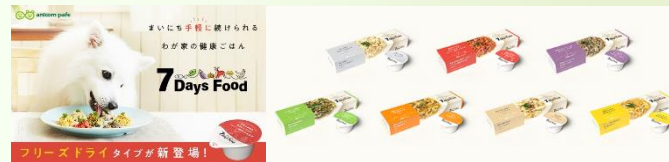
川 中



健診+口腔・腸内ケア商材の事業化

「どうぶつ健活」を通じた口腔・腸内ケア商材の
バリエーション強化

■「7Days Food」に、もっとお手軽で便利な
フリーズドライタイプが新登場！



■CRYSTAL JOYを使った歯みがき講習会を
グループ病院で実施！



治らないを治す

川 下



動物医療関連 (予防～一般・高度医療)

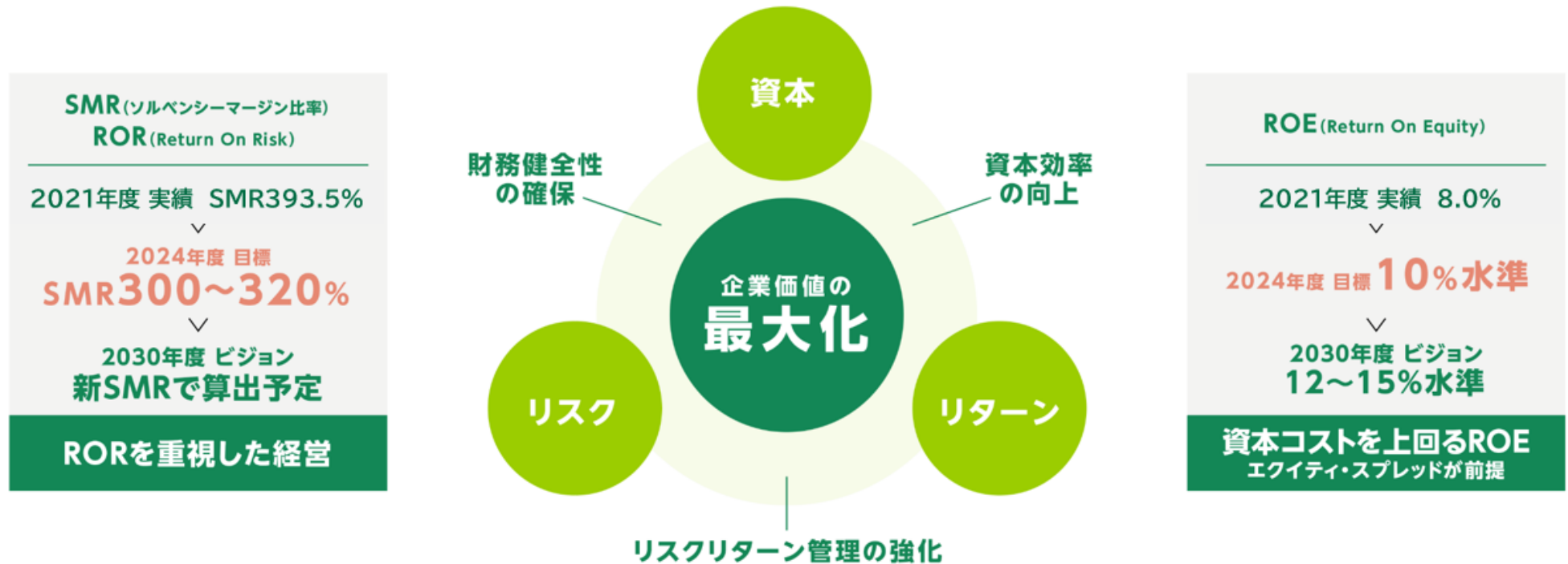
手術支援ロボットのリバーフィールド社と
共同研究開発契約を締結





6. 重点施策の進捗状況 その3 資本政策・株主還元

- 自己株式取得 25年3月期 30億円(25年2月 取得済)
- 配当性向の向上 25年3月期 20.2%(前年度16.2%)
- 連結ROEの向上 25年3月期 11.2%(前年度9.4%) ※資本コスト6.6%(前年度7.0%) ⇒ エクイティ・スプレッドが2.2pt拡大



株主還元 (配当性向・DOE)

2021年度 実績 配当性向 9.6%(増配後) > 2024年度 目標 **配当性向 20%水準** > 2030年度 ビジョン 配当性向→株主資本配当率(DOE)での開示へ



6. 重点施策の進捗状況 その4 サステナビリティ

経済的価値と社会的価値を創造するサステナビリティ経営に向けた取り組みを推進

	取り組み内容	関連データ	24年3月期	25年3月期
人	■ダイバーシティ ・多様な人材が最大限能力を発揮できるよう女性活躍を推進するとともに、男女問わず積極的な育児休業取得を推奨 ■災害支援 ・台湾東部沖地震、モロッコ大地震・リビア大洪水、ミャンマー大地震、ロサンゼルス山火事への募金活動	従業員女性割合(%)	61.4	63.8
		女性管理職割合(%)	33.7	36.5
		男性育休取得率(%)	68.0	69.0
		発明者数(累計)(名)	127	144
社会	■殺処分ゼロ ・保護犬猫シェルター「ani TERRACE」や保護団体への譲渡会  ■健康 ・疾患の早期発見に向けたどうぶつ健活(腸内細菌叢検査)を推進	hugU譲渡件数(件)	3,701	4,910
		譲渡会支援回数(回)	19	17
		保護犬猫譲渡頭数(頭)	74	69
		どうぶつ健活申込数(件)	220,413	242,420
環境	■気候変動 ・Scope1+2の実質温室効果ガス排出量を指標として定め、開示 ・再生可能エネルギーの使用比率100%を達成 ・Scope3を含む総排出量を2030年までに2020年度比で50%以上削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成	Scope1排出量(t-CO ₂)	271	180 ^{*4,5}
		電力使用量(千kW) ^{*1}	2,513	2,625
		再生可能エネルギー使用量 ^{*2}	2,728	2,666
		Scope2排出量 ^{*1,3} (t-CO ₂)	0 ^{*6}	0 ^{*6}
		従業員1名あたり排出量 Scope1 ^{*4,5} +2 ^{*1,3} (t-CO ₂)	0.29	0.18

^{*1} 一部暫定値を含みます ^{*2} 再エネ由来電力および非化石証書 ^{*3} マーケット基準 ^{*4} 2024年度に社用車から排出されたCO₂をJ-クレジットを活用して全量オフセットし、カーボンニュートラルを達成しました ^{*5} 株式会社フローエンスを除いた推計値となります ^{*6} 再エネ分控除後

② 中期経営計画のレビュー および2026年3月期 損益計画

1. 中期経営計画のレビュー
2. 基本戦略の概要
3. 2026年3月期 損益計画（年間・半期累計）





1. 中期経営計画のレビュー その1

中期経営計画に対して、概ね数値目標を達成

【主要経営数値目標】

	23年3月期実績	24年3月期実績	25年3月期実績	当初中期経営計画
連結経常収益	565.2億円	604.3億円	676.8億円	650～700億円
連結経常利益	36.8億円	41.5億円	49.4億円	45～50億円
連結ROE	8.2% (前年8.0%)	9.4%	11.2%	10%水準
株主還元 (配当性向)	14.2% (前年9.6%)	16.2%	20.2%	20%水準
シナジー創出事業 売上高・売上高比率	49.1億円 8.7%	54.3億円 9.0%	72.3億円 10.7%	78～84億円 12%水準
損保単体SMR (ソルベンシーマージン比率)	373.1% (前年393.5%)	333.7%	345.2%	300～320%



1. 中期経営計画のレビュー その2

保険事業は損害率の上昇を事業費率の低減でカバー

【主要KPI目標】

	23年3月期実績	24年3月期実績	25年3月期実績	当初中期経営計画
保険事業				
損害率	58.9% (前年58.1%)	59.9%	60.6%	58~59%
事業費率	34.9% (前年36.7%)	33.3%	32.3%	35~36%
コンバインド レシオ	93.8% (前年94.8%)	93.2%	92.9%	93~94%
シナジー創出事業				
遺伝子検査検体数	9.2万検体/年	6.7万検体/年	6.6万検体/年	12~15万検体/年
腸内細菌叢 申込数	21.1万測定/年	22.0万測定/年	24.2万測定/年	20~25万測定/年
健康イノベーション 事業売上	0.63億円	1.76億円	2.90億円	売上8~10億円へ
病院事業 ※	売上 : 17.6億円 のれん償却後利益 : ▲2.6億円	売上 : 18.7億円 のれん償却後利益 : ▲1.7億円	売上 : 21.9億円 のれん償却後利益 : ▲0.3億円	売上30億円へ のれん償却後で黒字

※過年度を含め、間接部門経費配賦後の数値を記載



2. 基本戦略の概要

どうぶつの一生を豊かで健康にする為の「**入って健康になる保険**」を実現

強みの『ペット保険事業』

- ・予防型保険アニコム独自の独自性を追求し差別化
- ・窓口精算システムによる高い顧客利便性と業務効率
- ・全国をカバーする営業力と多様な販売チャネル
- ・豊富なデータの解析による新たな健康延伸サービス等の価値創出
- ・多様な専門人材の積極的な登用



外部環境

- ・コロナ禍における特需的な飼育需要は落ち着きを見せるが、引き続き堅調
- ・大手企業等の相次ぐペット保険業界への参入
- ・動愛法規制強化後、ブリーダーとペットショップの業態融合による流通革命の加速
- ・動物病院の通院頻度の増加と診療費単価の上昇

どうぶつのライフステージに寄り添った『シナジー創出事業』

川上



・ブリーディング事業



・マッチングサービス事業



川中



・腸内細菌叢検査事業



・健康イノベーション事業

川下



・動物病院事業



・高度医療事業

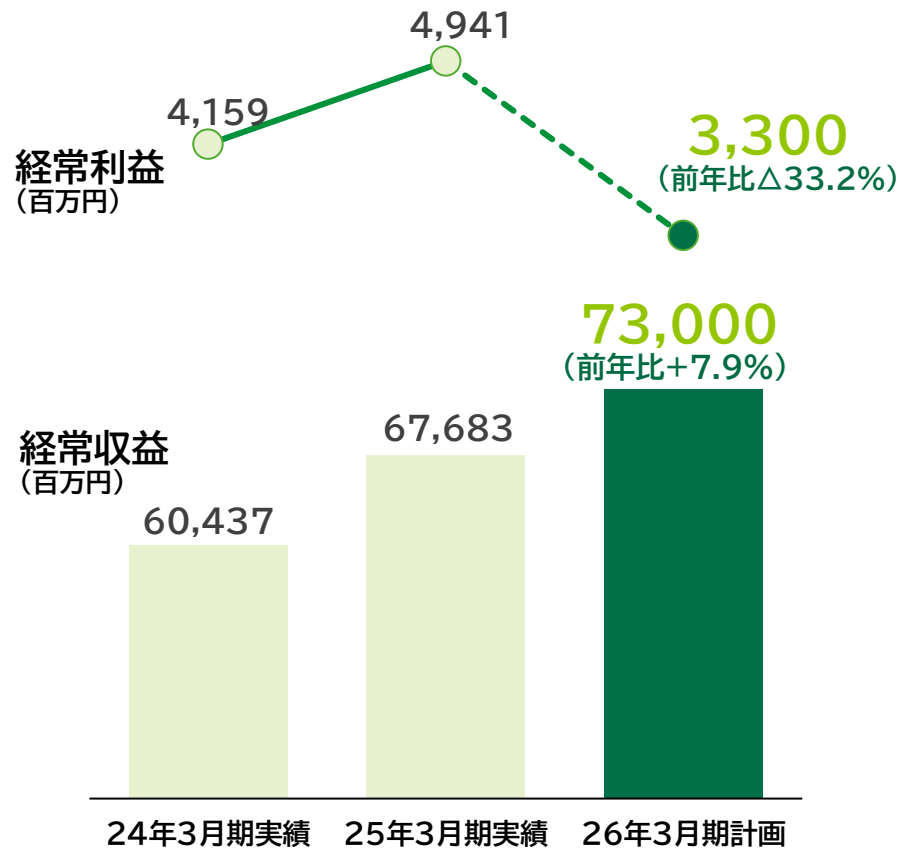
社会的価値と経済的価値の両立



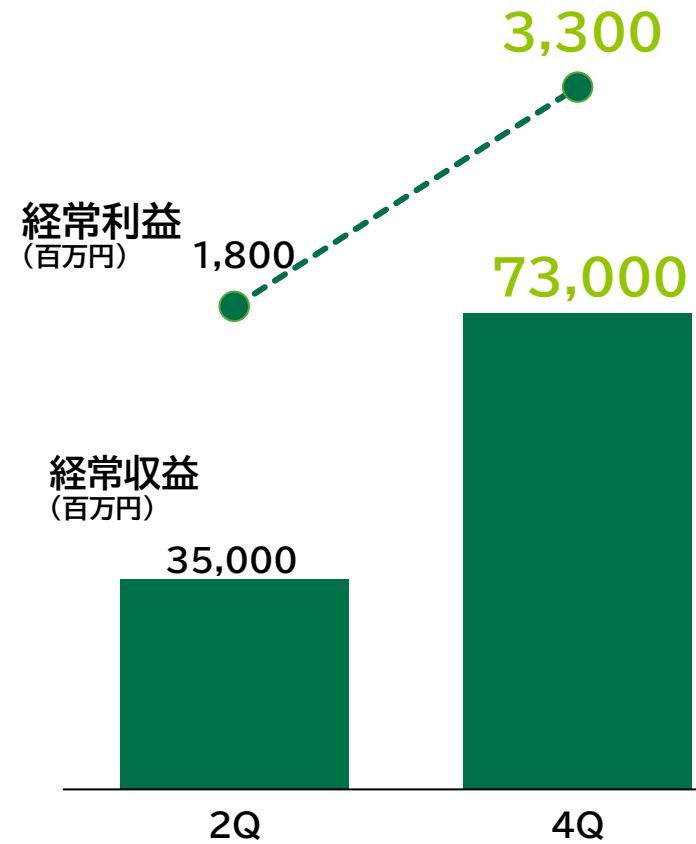
3. 2026年3月期 損益計画 (年間・半期累計)

中期経営計画2025-2027にて詳述

年間計画



半期累計計画



3 APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ

（ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移）

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ

（損害率（E/I）、既経過保険料ベース事業費率）





1. 主要経営パラメータ

	24年3月期末	25年3月期末	対前年比		26年3月期末 (5月9日予想)
			件数	率	
① 保有契約数	1,193,560 件	1,287,923 件	94,363 件	7.9%	1,390,000 件
② 新規契約数	223,289 件	245,741 件	22,452 件	10.1 %	280,000 件
③ 継続率	88.2 %	88.2 %	-	0.0 pt	88.2 %
④ 保険金支払件数	4,381 千件	4,564 千件	183 千件	4.2 %	4,804 千件

	24年3月期末	25年3月期末	対前年比 増減	26年3月期末 (5月9日予想)
⑤ E/I損害率	59.9 %	60.6%	0.7 pt	61.1 %
⑥ 既経過保険料ベース事業費率	33.3 %	32.3%	△1.0 pt	33.6 %
⑦ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	93.2 %	92.9%	△0.3 pt	94.7 %

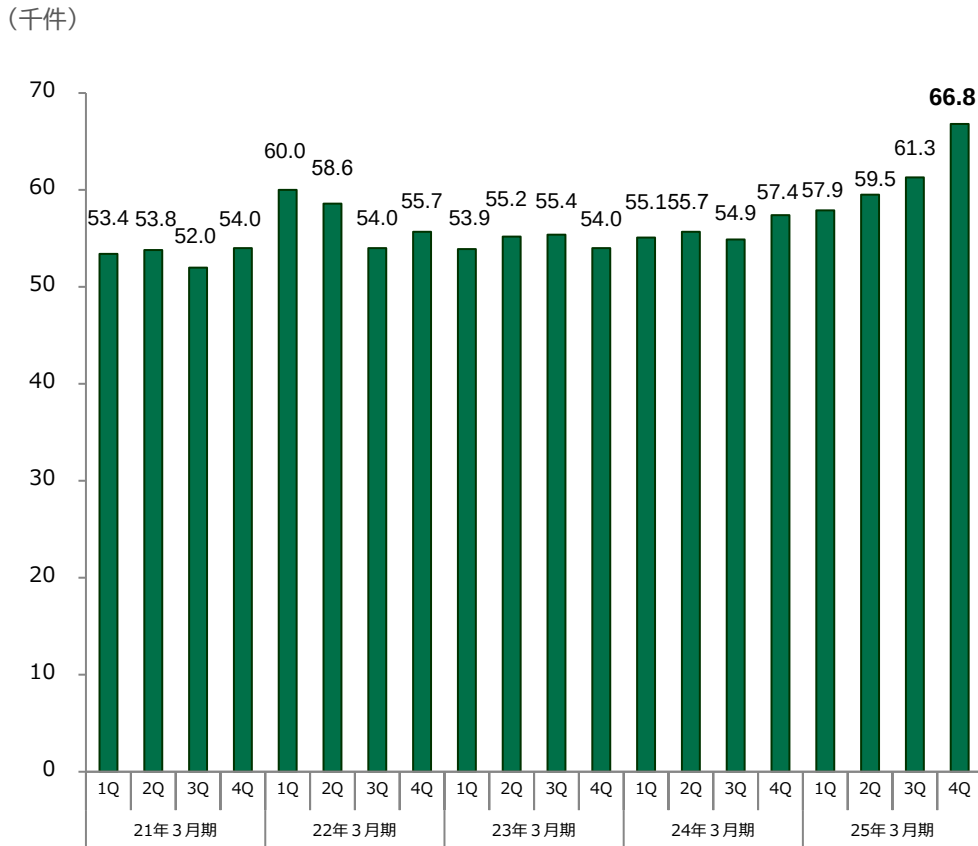
	24年3月期末	25年3月期末	対前年比 増減
⑧ 単体ソルベンシー・マージン比率	333.7 %	345.2 %	11.5 pt

	24年3月期末	25年3月期末	対前年比 増減
⑨ どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	220,413 件	242,420件	10.0 %
⑩ 対応動物病院数	6,879 病院	6,964 病院	1.2 %
⑪ 遺伝子検査検体数	67,801 件	66,276 件	△2.2 %

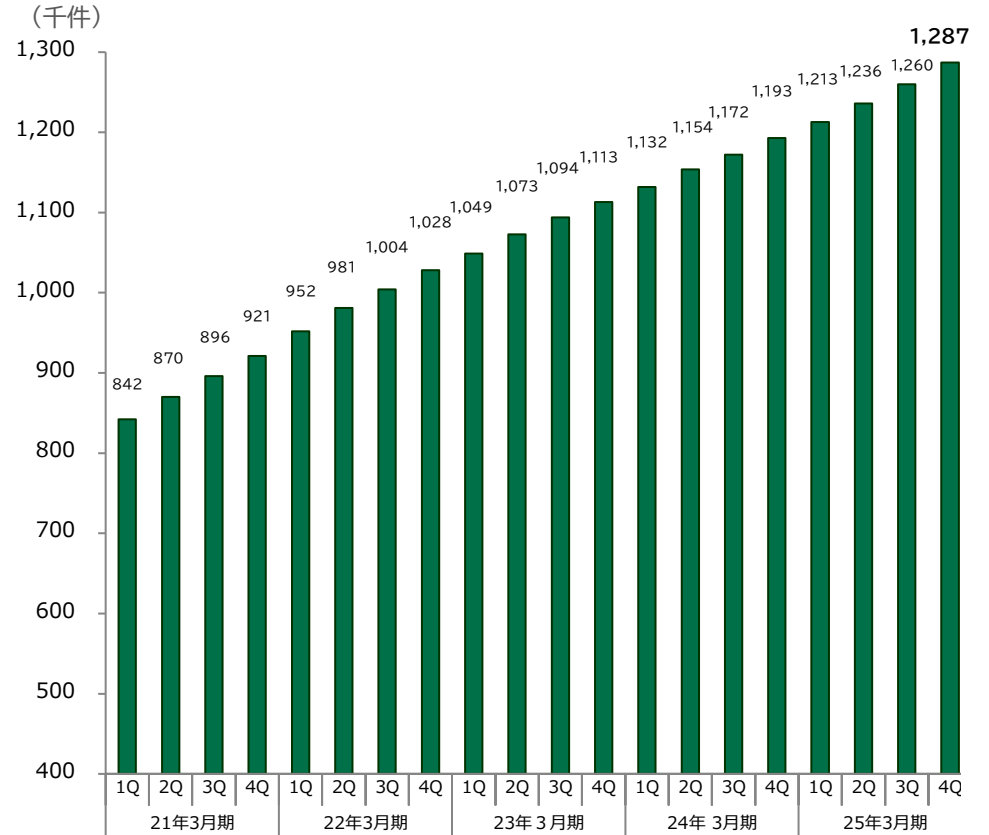


2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ

新規契約獲得件数の四半期推移



保有契約件数の四半期推移



3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ



【参考情報】

15年3月期 1Q

■保険料改定
・平均12%の改定

15年3月期 3Q

■限度日数付き新商品
■健康割増引制度導入

18年3月期 2Q

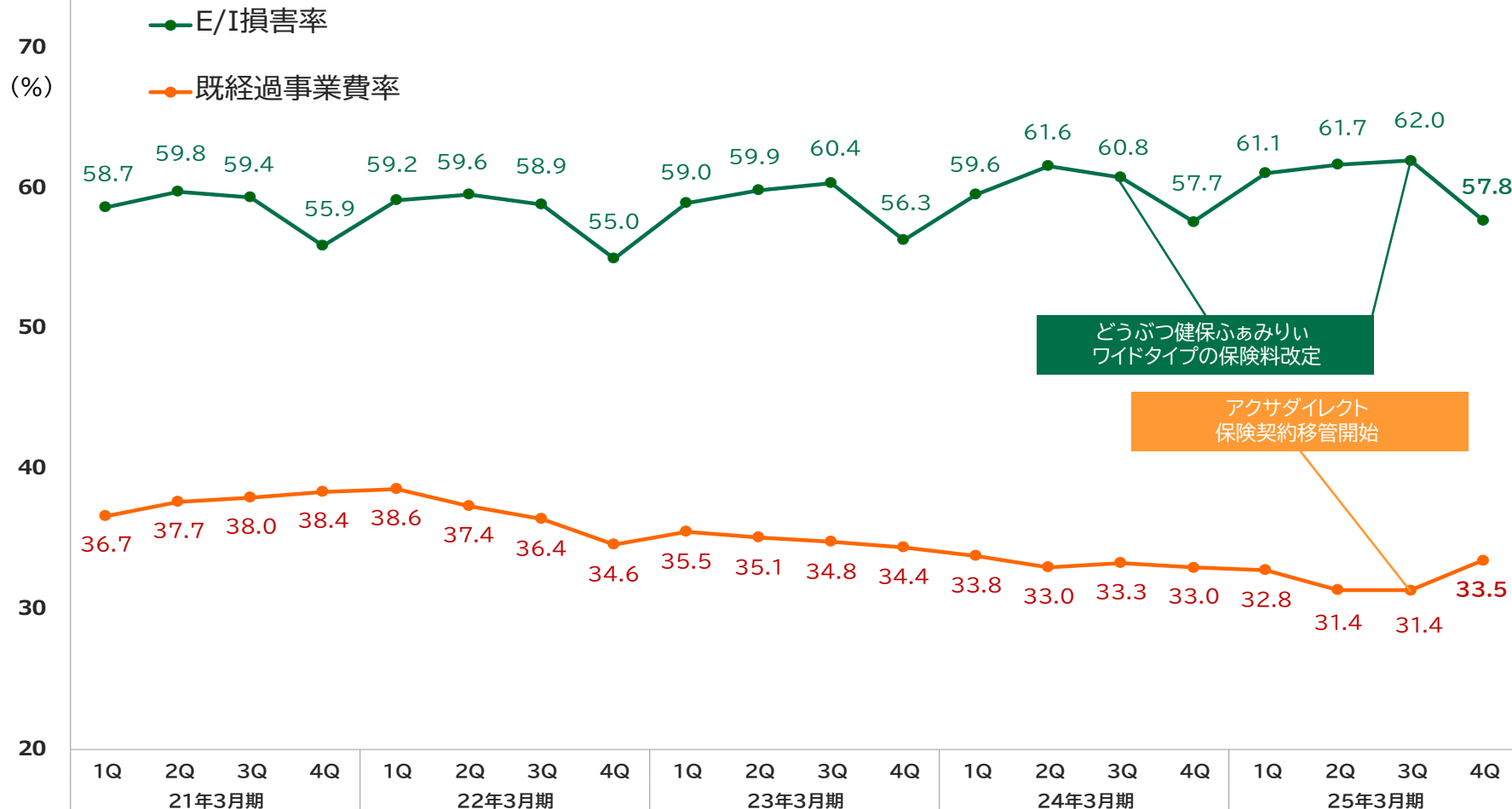
■保険料率改定
・8歳以上の保険料改定

19年3月期 3Q

■「どうぶつ健活」の導入
■保険料改定
・保険料・品種クラスの改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。

注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。

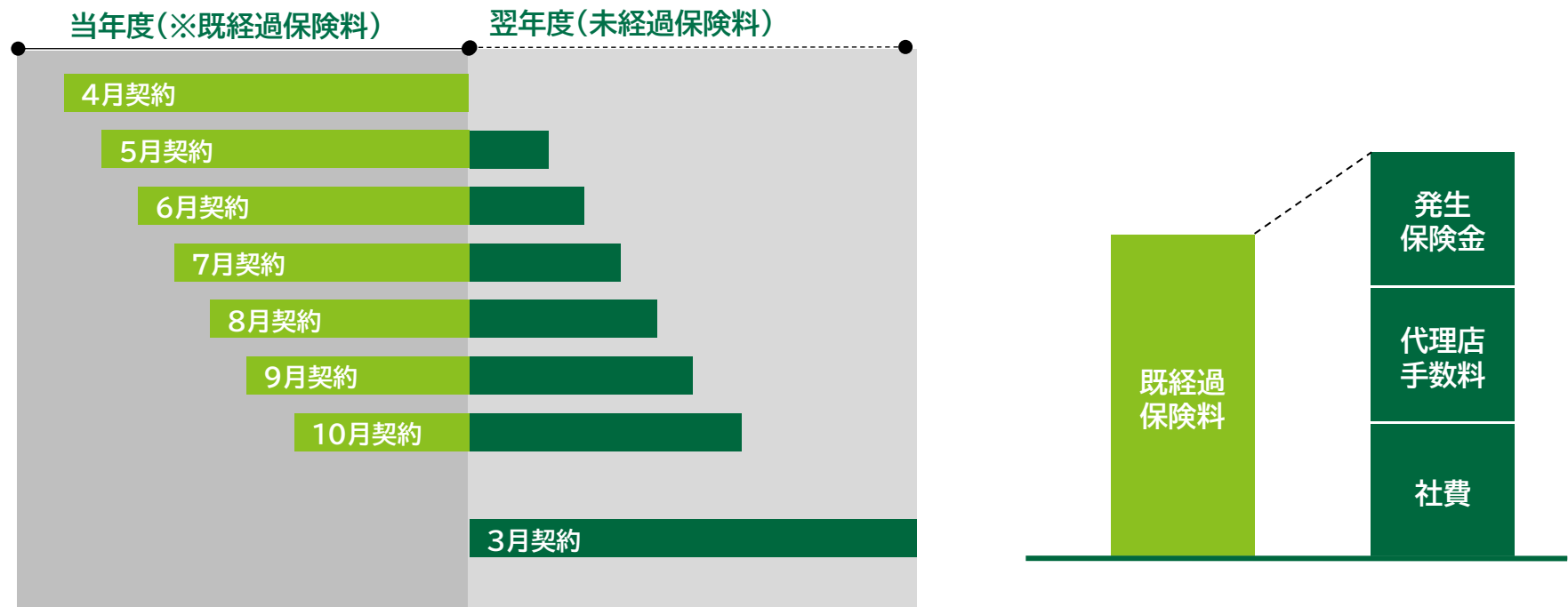




(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が每期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。